



故 松本 慶蔵 先生

一般社団法人日本感染症学会名誉会員

1929 年 1 月 15 日 生
2023 年 10 月 2 日 逝

故 松本 慶蔵 先生

(2023 年 10 月 2 日)

略 歴

【学歴・職歴】

1955 年 3 月	東北大学医学部卒業
1960 年 3 月	東北大学医学部大学院内科系終了
1961 年 2 月	東北大学医学部附属病院第 1 内科助手
1972 年 10 月	東北大学医学部附属病院第 1 内科講師
1974 年 10 月	長崎大学熱帯医学研究所臨床部門教授
1981 年 4 月～1991 年 3 月	長崎大学熱帯医学研究所所長兼任
1994 年 3 月	長崎大学熱帯医学研究所臨床部門教授定年退官
1994 年 4 月	伴帥会愛野記念病院名誉院長
1994 年 5 月	長崎大学名誉教授

【学会・社会活動歴】

- ・一般社団法人日本熱帯医学会（理事）
第 34 回日本熱帯医学会大会会長（1992 年 11 月 25 日～26 日、長崎市）
第 14 回国際熱帯医学・マラリア学会会長（1996 年 11 月 17 日～22 日、長崎市）
（International Congress of Tropical Medicine and Malaria: ICTM）
- ・一般社団法人日本感染症学会（理事）
第 63 回日本感染症学会西日本地方会総会・学術集会会長（1993 年 11 月 25 日～26 日、長崎市）
- ・公益社団法人日本化学療法学会（理事）
第 28 回日本化学療法学会西日本支部総会会長（1980 年 12 月 4 日～5 日、長崎市）
第 38 回日本化学療法学会総会会長（1990 年 5 月 17 日～19 日、長崎市）
- ・一般社団法人日本炎症・再生医学会（理事）
第 7 回日本炎症・再生医学会学術総会会長（1986 年 7 月 25 日～26 日、東京都）

【受賞歴】

1972 年 3 月	1971 年度 ACCP（アメリカ胸部医学会）日本支部賞
1974 年 1 月	1973 年度東北大学医学部奨学賞金賞
1975 年 3 月	第 20 回日本感染症学会二木賞 「インフルエンザ菌慢性呼吸器感染症の基礎的臨床的研究」感染症学雑誌 第 48 巻第 4 号 117-125.
1991 年 4 月	紫綬褒章
2000 年 11 月	勲三等旭日中綬章
2005 年 2 月	第 1 回ヘルシー・ソサエティ賞
2023 年 11 月	叙位・叙勲 従四位

【主な著書】

- ・ Clinical Microbiology of Respiratory Infections
Keizo Matsumoto, Tsuyoshi Nagatake March 31, 1994
（Publisher : Department of Internal Medicine ,Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Showado Printing Co, Ltd, Isahaya, Japan,1st edition March 31, 1994）
- ・ 病原菌の今日的意味・松本慶蔵 編
医薬ジャーナル社 2011 年 11 月 改訂 4 版（1987 年 8 月初版発行）
- ・ 細菌感染症の変貌と化学療法－Empiric therapy を含めて
医薬ジャーナル社 1993 年 10 月
- ・ セフェム系抗生物質
医薬ジャーナル社 1991 年 1 月
- ・ 感染症の化学療法：抗生物質の選び方と用い方
松本慶蔵、鈴木寛編著 新興医学出版社 1985 年 10 月
- ・ 細菌感染症の動向：起炎菌の正しい決定と感染症の変貌
松本慶蔵編 医薬の門社 1982 年 12 月

松本慶蔵先生を偲んで

松本慶蔵先生におかれましては、令和5年（2023年）10月2日に老衰のためご逝去になりました。ここに謹んで哀悼の意を捧げます。松本先生の生い立ちについては、教授退官記念誌「師と心友と」に松本先生ご自身が執筆されています。松本先生は1929年1月、宮城県松山町の生まれで、生家は酒屋でした。御尊父が42歳で他界された後に、海軍兵学校予科、終戦後には旧制第二高等学校に進学されました。東北大学医学部を卒業後、1956年に東北大学第一内科（中村 隆教授）に入局され、その後細菌学講座の大学院（黒屋政彦教授、石田名香雄助教授）に進学されました。この大学院時代には基礎研究に励む一方で、「ウイルス性呼吸器疾患（日本内科全書-金原出版）」の発刊に尽力されました。1960年からは、中村教授の命を受け、「呼吸器感染症の起炎菌決定法」の研究に打ち込まれました。松本先生は呼吸器感染症患者由来の喀痰定量培養において、喀痰中への口腔内細菌の混入を避けるため KIFA グリーンカテーテルを用いた気管支局所採痰法を考案されました。さらに、その臨床研究の結果から、定量培養法の判定基準は $\geq 10^7$ cfu/mlであることを結論付けられました。この方法によって、当時はあまり注目されていなかったインフルエンザ菌の呼吸器感染症患者における有意起炎菌率が25～30%と高いことを明らかにされました。これらの一連の研究から、松本先生は1972年に「インフルエンザ菌による慢性呼吸器感染症の基礎的臨床的研究」を発表され、その評価から日本感染症学会二木賞を受賞されました。その後、1974年に長崎大学熱帯医学研究所の教授に就任され、熱研内科を開講されました。その後も松本先生は喀痰定量培養による起炎菌決定法の研究を継続的に推進され、抗菌化学療法の研究の進歩に大きく貢献され、呼吸器感染症の第一人者としての不動の地位を確立されました。これらの功績から、松本先生は1991年4月に紫綬褒章を受章されています。

松本先生には、その目をカッと見開くことで「目玉のマッチャー」という親しみのあるニックネームもありました。ある国内学会で、松本先生が講演発表者に向かって、「ただ今のご発表内容には事実誤認がある!!」と強い口調で異議を唱えておられた光景が印象深く思い出されます。ご自身の専門領域の事実関係には大変厳しい先生でした。一方、先生は大変社交的で、人を引きつける魅力のあるご性格であったことから、熱研内科には多くの医師や研究者が続々と入局しました。教授就任から1994年の御退官までに熱研内科に在籍した医師及び研究者は総勢69名でした。教授在任中には1981年4月～1991年3月の10年間

の長きにわたり、長崎大学熱帯医学研究所の所長を務められました。この間に1983年には熱帯医学研修課程の新設、1985年には国際シンポジウム「Kaposi's sarcoma& AIDS」を文部省と共催し、1989年には熱帯医学研究所が全国共同利用研究所として改組されました。また、1987年にはタイ国・チェンマイ大学医学部との学部間学術協定の締結、1990年にウガンダ・マケレレ大学医学部、1993年にはバングラデシュ・ダッカ小児病院との共同研究を開始されました。

国内学術活動としては、1990年に第38回日本化学療法学会総会長（長崎市）、1992年11月に第34回日本熱帯学会大会長（長崎市）、1996年11月には第14回国際熱帯医学・マラリア学会会長（長崎市）を務められました。その後、2000年11月には勲三等旭日中綬章を受章され、2005年2月には第1回ヘルシー・ソサエティ賞を受賞されています。

私は松本先生が開講された6年目の1980年4月臨床部門（熱研内科）に入局し、呼吸器内科・感染症内科の診療に明け暮れました。臨床に没頭する中で、1987年に私はワシントンDC近郊のUniformed Services UniversityのMatthew Pollack教授の研究室に留学機会をいただき、当時の研究の先駆けであった「大腸菌のLPS O抗原に対するモノクローナル抗体アイソタイプによる補体結合能と抗菌活性」について研究しました。留学後に私は熱研内科で細菌感染症の感染・免疫・炎症の一連の研究を継続することができました。松本先生には自由度のある研究機会を与えていただいたことに深く感謝しています。

2012年4月に私が大阪大学微生物病研究所を経て、国立感染症研究所（新宿区）に移動した時には、松本先生も都内に転居されていたので、松本先生ご夫妻と、私と家内とで何回か食事会をさせていただきました。国立感染症研究所を退官後の2019年4月に富山県衛生研究所で職を得て、翌年1月に新宿初台のお住まいにも伺い、食事を一緒にしました。その後、松本先生ご夫妻はコロナ禍の間に施設に入所され、私は2022年と2023年の6月に施設に伺いました。松本先生は読書をされ、悠々自適の生活を送っておられました。それ故、この度の松本先生の訃報はあまりに突然でした。ご逝去後の10月20日になりましたが、私は奥様がお住まいの施設を訪問し、松本先生のご冥福をお祈りしました。御霊前には「カッと目を見開いた、在りし日を彷彿とさせる松本先生のご尊顔」がありました。松本先生、長い間お世話になりました。安らかにお眠り下さい。



1994 年 3 月 松本慶蔵教授退官記念（長崎市）

2024 年 1 月

大石 和徳 記

（富山県衛生研究所 所長

一般社団法人日本感染症学会 評議員、ワクチン委員会委員）